

【常設展示室 ①】 素材とあそぶ —令和3年度新収蔵品を中心に—

現代アート作品には様々な素材が使用されています。油彩、水彩、アクリルなどの絵具はもちろん、時には画材ではない素材も作品に生かされています。本展では、2021年度新収蔵作品を中心に、素材に注目して15作家による19点の作品を紹介いたします。

架空の「大正生まれの三流画家ユアサエボシ」として制作を続けるユアサエボシの《GHQ PORTRAITS》では、戦後の瓦礫を素材にアメリカ兵の似顔絵を描いたという設定のもと、古い瓦が使われています。アメリカの石油パイプライン建設にまつわる争いや問題をテーマにした加藤翼の映像作品《Underground Orchestra》では、住処を追い出されたプレーリードッグたちの、新しい巣穴につけたベルの音が鳴り響き、地上から見えない彼らの存在を知らせます。《無名》は、谷澤紗和子による陶土と貝殻を合わせて焼成した無数の陶人形と、作家の藤野可織が執筆した小説とが対になった二人の合作です。その他にも、油彩で「変顔」の自画像を描き続ける松井えり菜や、つないだ牛皮に動物を描いた鴻池朋子の作品を紹介します。

それぞれが表現に合わせて選び用いた素材の違いを感じながら、高松市美術館のコレクションをお楽しみください。

作品リスト

No. 作家名 作品名 制作年/技法・材質

01	草間彌生	Untitled	1961 / コラージュ・紙
02	日比野克彦	TYPEWRITER	1982 / アクリル、色鉛筆、墨・段ボール
03	八木良太	CD (black-01, white-08, blue-01)	1963 / CD・カンヴァス
04	八木一夫	抗走者	1955 / 信楽土・轆轤成形・白化粧
05	八木一夫	素因の中の素因	1969 / 陶
06	稲崎栄利子	雄鳥	2005 / 陶土、磁土、長石、鉱物顔料
07	谷澤紗和子/藤野可織	無名	2015 / 陶、貝、シルクスクリーン・布
08	鴻池朋子	皮絵 オオカミ	2015 / アクリル、水彩、水溶性ワックス・パステル・牛皮
09	松尾直樹	ねずみの冒険	1985 / 油彩、蜜蝋・カンヴァス
10	藤 浩志	Anger Dog 980B18	2018 / ミクストメディア
11	野見山暁治	虚空	1976 / 油彩・カンヴァス
12	野見山暁治	今日という今日	2002 / 油彩・カンヴァス
13	白髪一雄	天威星雙鞭呼延灼	1964 / 油彩・カンヴァス
14	ユアサエボシ	GHQ PORTRAITS	2017 / 水性塗料・瓦
15	ユアサエボシ	軍装の自画像	2022 / アクリル・カンヴァス
16	山下菊二	双頭	1973 / 油彩・カンヴァス
17	松井えり菜	私クロスオーバー!	2019 / 油彩・カンヴァス (寄託)
18	松井えり菜	エブリデー審判デイズ	2020 / 油彩・カンヴァス
19	加藤 翼	Underground Orchestra	2017 / ブルーレイ、5分38秒

2023年 1月5日 木 — 3月26日 日

開館時間：9:30～17:00 (ただし、特別展開催期間 2/11～3/21の金・土は19:00まで)
休館日：月曜日 (ただし、1/9(月・祝)は開館、翌10日(火)休館)

観覧料：一般200円(160円)、大学生150円(120円)、65歳以上・高校生以下無料
※()内は団体20名様以上の料金

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳等所持者、
高松市キャンパスメンバーズ制度加盟大学等の学生証所持者は無料



ギャラリートーク [学芸員による解説]
1月21日(土) 14:00～ ※要観覧券

※常設展示室1は、3/11～26の期間、
「第40回日本伝統漆芸展」を開催予定
※3/9・10は展示替えのため
常設展のみ休室

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4
TEL:087-823-1711 FAX:087-851-7250
https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/



高松市美術館
TAKAMATSU ART MUSEUM

【常設展示室 ②】 讃岐漆芸の美 —アムステルダム国立美術館漆芸展出品作品を中心に—

今夏、オランダのアムステルダム国立美術館で開催された「Breaking out of Tradition (伝統からの脱却)」をテーマにした「Modern Japanese Lacquer (近代日本の漆芸)」展に、アメリカ、オランダ、スイス、ドイツの美術館や個人のコレクションとともに高松市美術館のコレクションから6点が出品されました。明治維新後、漆芸家たちは近代的なアイデンティティと表現方法を求めて、新しい技法を見出したり、モチーフや扱う素材に独自性を持たせたり、と様々な挑戦を行いました。磯井如真や音丸耕堂といったその時代を生きた讃岐漆芸の作家たちも、新しい顔料や技法、意匠を積極的に取り入れました。そして、彼らの多彩な表現と精緻な技術は、現代にも受け継がれています。

本展では、「Modern Japanese Lacquer」展に出品された、石井馨堂《狹貫彫 堆黒 香卓》や音丸耕堂《堆朱板文庫 昆虫之圖》、《彫漆椿文手箱》、磯井如真《堆朱 柿香盒》のほか、出品された作品とはまた違った技法や意匠に挑戦した彼らの作品や、讃岐漆芸の祖である玉楮象谷の作品も併せて展示いたします。

讃岐漆芸の精緻な彫りと豊かな色彩、そしてそれぞれの作家たちの個性溢れる表現を10作家31点の作品を通してお楽しみください。

作品リスト

No. 作家名 作品名 制作年(表記のないものは不詳) / 寸法(縦×横×高または奥行、高×直径) cm / 材質

01	玉楮象谷	狹貫彫堆黒 松ヶ浦香合(隠し文字「松」「は」「天」)	1851 / 2.3×8.7 / 漆
02	玉楮象谷	堆朱 御筆筆筥	1851 / 33.0×4.2×4.2 / 漆
03	玉楮象谷	印筥	11.9×11.9×12.1 / 漆
04	磯井如真	宝玉筆筥	1947 / 12.0×11.5×11.5 / 漆
05	石井馨堂	紅花緑葉 桐鳳凰之圖 香盒	1928 / 5.0×8.0 / 漆
06	石井馨堂	堆朱香盒 葦蟹之図	1927 / 3.0×6.3 / 漆
07	石井馨堂	堆黒香盒	2.6×7.0 / 漆
08	石井馨堂	堆朱香盆	1924 / 34.0×29.5×3.5 / 漆
09	石井馨堂	紅花緑葉香盆 水草虫之図	1928 / 42.2×28.5×4.0 / 漆
10	石井馨堂	狹貫彫 堆黒 香卓	1931 / 36.6×65.8×28.2 / 漆
11	高橋皖山	荷葉紅魚 野菜類之圖 堆朱肉池	11.2×11.2×4.9 / 漆
12	高橋皖山	風月三昆 福祿壽 圖 紅華緑葉香合	1919 / 8.0×8.0×3.6 / 漆
13	高橋皖山	福祿壽 牡丹華之圖 堆黒香盒	8.0×8.0×3.5 / 漆
14	高橋皖山	手向山圖 堆黒香合	2.2×6.2 / 漆
15	高橋皖山	采果並福寿之図 堆朱香炉盆	1920 / 25.7×36.7×3.1 / 漆
16	磯井如真	供養之図 衝立	1933 / 151.5×120.0×2.5 / 漆
17	磯井如真	蜻蛉之圖 香盒	1937 / 6.2×4.3 / 漆
18	磯井如真	鶴 香盒	1939 / 7.8×4.2×4.8 / 漆
19	磯井如真	茄子 香盒	6.2×3.5×3.5 / 漆
20	磯井如真	堆朱 香盒 百合	1942 / 7.3×2.6 / 漆
21	磯井如真	堆朱 柿香盒	1941 / 7.4×4.2 / 漆
22	磯井如真	彫漆蒟醬 色紙筥	1946 / 27.4×30.4×8.5 / 漆
23	音丸耕堂	堆朱板文庫 昆虫之圖	1928 / 24.2×33.3×4.5 / 漆
24	音丸耕堂	彫漆椿文手箱	1943 / 33.6×28.3×18.1 / 漆
25	音丸耕堂	彫漆八仙花 香合	1950 頃 / 7.4×5.0 / 漆
26	音丸耕堂	彫漆銀蘭文 茶入	1952 頃 / 8.5×6.9 / 漆
27	明石朴景	蒟醬紅梅紋筐	1948 / 35.3×27.0×26.5 / 漆
28	磯井正美	蒟醬 梅花吸蜜 箱	2003 / 20.5×28.2×11.4 / 漆
29	太田 儔	籃胎箱 波文	1989 / 38.5×10.0×12.5 / 漆
30	山下義人	蒟醬箱 水烟る	120×24.0×11 / 漆
31	大谷早人	籃胎蒟醬箱 網代文	1997 / 22.0×15.8×18.2 / 漆